西大和つうしん

２０１４年　９月号
No.３８７

南アルプス小仙丈尾根から仙丈ヶ岳へ
７月２６～２７日例会山行：甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳

奈良県勤労者山岳連盟
西大和山の会

西大和つうしん

第387号（2014年9月号）

【目　　次】

９月度山行計画…… 1
登山バス予告…… 2
９月度・１０月度カレンダー…… 3
山行・行事等参加メモ…… 4

山行報告

・自主山行	《7月14-22日》	北海道花旅	トムラウシ山（阪口）……	5
			雌阿寒岳（今井）……	5
			斜里岳（今井）……	6
			羅臼岳（阪口）……	8
			大雪山・赤岳他（島崎）……	8
			富良野岳（亀井）……	9
・例会山行1	《7月25-27日》	南アルプス	甲斐駒ヶ岳（勝尾）……	10
			仙丈ヶ岳（橋本）……	11
・県連登山学校訓練山行	《8月 2-3日》	大峰の山	天川村九尾谷付近（今井）……	12
・自主山行	《8月12-14日》	北アルプス	五色ヶ原（藤本）……	13
・自主山行	《8月17-19日》	御嶽	御嶽山（藤井）……	15
・例会山行1	《8月22-26日》	北アルプス	劔岳（阪口/島崎/的場/今井）……	17

室内例会だより(7/30)…… 19

９ 月 度 山 行 計 画

～ﾙｰﾄﾌｧｲﾝﾃﾞｨﾝｸﾞや地図読みの練習も兼ねて捜索の実践を～

◆９月７日（日）：例会山行１（奈良県連広域捜索訓練）

※実際に即した訓練とするため、ﾌｨｰﾙﾄﾞとなる山域等は直前に決定されます。

〔L：藤本 / 緊連：都築〕

～鎌尾根コースをたどり展望の良い岩稜の頂上へ～

◆９月１４日（日）：例会山行２◆鈴鹿の山《鎌ヶ岳：鎌尾根コース》

〔L：林 / 緊連：都築〕

【集　合】６：３０ 上牧町役場前駐車場

【コース】宮妻キャンプ場 P～(0:15)～カズラ谷登山口～(0:40)～林道分枝～(1:10)～水沢峠～(0:40)～水沢岳～(2:00)～鎌ヶ岳頂上～(1:00)～カズラ谷登山口～(0:10)～宮妻キャンプ場 P

【歩行時間：6時間・歩程：9.5km】

～中央分水嶺・高島トレイルの美しいブナ林を歩こう～

◆９月２０日（土）～２１日（日）：例会山行１（テント泊）

◆高島トレール《赤坂山～大谷山、三重ヶ嶽～武奈ヶ嶽》

〔L：藤井 / 緊連：都築〕

【集　合】９月２０日 ６：００ 王寺駅

【コース】

9/20：マキノ高原～(2:10)～粟柄峠～(0:20)～赤坂山《823.8m》
～(0:15)～粟柄峠～(0:30)～寒風～(0:30)～大谷山《813.9m》
～(2:10)～正眼院～(0:30)～マキノピックランド
◎ビラデスト今津でテント泊

9/21：落合～(2:50)～三重ヶ嶽《974.1m》～(2:50)～武奈ヶ嶽《865.0m》
～(0:35)～赤岩～(1:00)～角川

登 山 バ ス 予 告

～若狭の海や三方五湖を眺めながら、秋風も心地よい草原歩き～

◆１０月２６日（日）：例会山行２・登山バス（奈良県連交流山行）

◆江若国境の山《三十三間山・轆轤山》

〔L：藤本 / 緊連：田中（悦）〕

【集　合】JR 王寺駅南口 ６：３０発
(他会参加者が多数の場合は、集合地を追加する可能性あり)

【コース】(往復アクセスはマイクロバス利用：片道約 225km)

《ｱｸｾｽ往路》王寺駅(6:30 発)＝香芝 IC＝〈西名阪道・近畿道・中国道・舞鶴若狭道〉＝西紀 SA〔休憩〕＝小浜 IC＝倉見登山口(10:00 着)

《登山行程》倉見登山口～(20min.)～最後の水場～(40)～夫婦松～(30)～風神～(20)～▲三十三間山(12:10/12:50)～(35)～▲轆轤山～(45)～林道白谷線出合～(45)～国道 27 号線出合(15:15)

【歩行時間：3h55(+途中休憩 0h40+昼食 0h40)⇒所要計：5h15】

【歩行距離：9.5km / 最大標高差：732m(最低 110m/最高 842m)】

《ｱｸｾｽ復路》国道 27 号線・倉見白谷林道出口(15:30 発)＝〈往路の逆コース、途中西紀 SA で休憩〉＝王寺駅南口(19:00～20:00 頃帰着)

※高速道の渋滞等により、登山口への到着が大幅に遅れた場合、急な天候悪化の場合などは、倉見登山口～三十三間山のピストンとすることがある。

※10/25(土)17 時発表の気象庁予報において、福井県嶺南地方の降水確率が当日 6:00～18:00 の間に 60%以上となる場合は原則として中止とする。なお、中止/決行の通知は本会 HP 上にて 10/25 の 18:00 までに行うと同時に、他会代表者にはメールでも通知する。

西大和山の会　カレンダー

９　月		
1	月	
2	火	県連理事会(県連事務所19:30)
3	水	
4	木	県連登山学校・座学第5回(県連事務所19:30)
5	金	県連遭難対策会議(県連事務所20:00)
6	土	┌─行先等は9/5の遭難対策会議で決定
7	日	◆例会山行(県連広域捜索訓練)(藤本)
8	月	
9	火	
10	水	
11	木	
12	金	
13	土	
14	日	◆例会山行・鈴鹿:鎌ヶ岳(林)
15	月	
16	火	
17	水	『西大和つうしん』10月号原稿締切
18	木	
19	金	
20	土	◆例会山行(テント泊)・
21	日	比良:高島トレール(藤井)
22	月	
23	火	
24	水	◆室内例会(事務所19:30)
25	木	
26	金	
27	土	
28	日	
29	月	
30	火	

１０　月		
1	水	
2	木	県連登山学校・座学第6回(県連事務所19:30)
3	金	
4	土	◆女性部山行(月見山行)・
5	日	台高:三峰山(村田)
6	月	└10/5 県連登山学校・訓練山行
7	火	県連理事会(県連事務所19:30)
8	水	
9	木	
10	金	
11	土	
12	日	◆例会山行・宇陀:古光山(橋本)
13	月	
14	火	
15	水	
16	木	
17	金	
18	土	
19	日	◆例会山行・比良:リトル比良(阪口)
20	月	
21	火	
22	水	『西大和つうしん』11月号原稿締切
23	木	
24	金	
25	土	┌─登山バス・県連交流山行
26	日	◆例会山行・江若国境:三十三間山(藤本)
27	月	
28	火	
29	水	◆室内例会(事務所19:30)
30	木	県連登山学校・座学第7回(県連事務所19:30)
31	金	

山行・行事等参加メモ

		室内例会	例会山行1	例会山行2	例会山行1 テント泊	例会山行2 登山バス	例会山行2 女性部山行			
入会順		8/31 室内 例会	9/7 捜索 訓練	9/14 鎌ヶ 岳	9/20-21 高島 トレール	10/26 三十三 間山	10/04-05 三峰 山			
1	（窪田）					×				
2	都築	○	×緊	×緊	×緊	○	○			
3	藤井	○	×	○	○L	○	○			
4	（石田）									
5	多賀	○	×	○	○	○				
6	田中悦	○	○	○車	×	×緊	○			
7	島崎	○	○BW	○	○車	○	○			
8	田中初	○	×	×	×	○	○			
9	村田	○	×	×	×	○	○			
10	林	○	×	○L車	○	○	×			
11	辻	○	×	×	○車	○	×			
12	勝尾	○	×	○	○	○	○			
13	藤本	○	☆BW	×	○	○L	×			
14	杉村	○		×		△	△			
15	高橋	×	休　会　中							
16	玉越	×		○	×	○				
17	的場	×	×	×	○	×				
18	杉川	○	☆BW	×	○	○	×			
19	阪口	○	☆BW	×	×	○	×			
20	橋本	×			△	○				
21	今井	○	☆BW	×	△	○	×			
22	亀高	○	○	○車	○	○	×			
23	松浪	×			×					
24	亀井	○	×	○	○	○	○			
25	船江	○	×	○	○	○	○			
	合計		7	10	12+α	18+α	9+α			

9/7 捜索訓練関係:

☆＝訓練目標準備スタッフとして 9/6 朝より入山

BW＝ビヴァーク訓練（9/6 の晩に実施）から参加

車の使用は 9/5 に決定

自主山行

北海道の山　花旅

【日　程】７月１４日（月）～２２日（火）
【参加者】L 島崎・今井・阪口・亀井（4 名）

北海道花旅１　《トムラウシ山》 2,141m

【日　程】７月１５日（火）晴れ
【ｺｰｽﾀｲﾑ】短縮コース登山口(4:40)～カムイ天上分岐(5:50)～コマドリ沢(7:20)～前トム平(8:30)～トムラウシ公園(9:05)～トムラウシ分岐(10:18)～トムラウシ山頂〔昼食〕(10:50/11:20)～トムラウシ分岐(11:45)～前トム平(13:05)～コマドリ沢(13:40)～カムイ天上(15:32)～登山口(16:38)　歩数：36,555

長時間登山の初日、短縮コースから始まる。樹林帯の中、木の根を持ったり、ぬかるんだ道や、木道を歩いたりしながら、コマドリ沢に着く。沢を渡るといきなり長い雪渓歩きが始まる。アイゼンは使わなくていけそうだ。ここを一気に登り前トム平まで行くと、景色は樹林帯から岩山に変わる。

大きな岩の上を渡りケルンで休憩。ここを降りると、トムラウシ公園に出る。公園とはよく言ったもので、雪解け水が川になりお花が咲き乱れ綺麗な景色に癒される。そして又暫く登ると、トムラウシ分岐に出る。いよいよ山頂が見えてきた。岩を登り遂に登頂ヤッター！でもガスっている。軽く行動食を食べながらガスの抜けるのを待つが、風が強く寒い。数年前のトムラウシ遭難事故が頭をよぎる。ガスは抜けそうにないし寒いので、下山することに。トムラウシ分岐のキャンプ場で、強風にあおられてテントが飛ばされていくのを目の当たりにする。風の強い時は、テントを張るのも大変だなと思いながら下山する。コマドリ沢の雪渓を下るが、来たときよりも踏み跡が乱れていて、凍っている所を踏んでしまい、女性 3 人は同じように滑ってしまった。その後の樹林帯歩きの長いのに参ってしまう。

でも全員無事に下山出来た時はホッとした。12 時間よくぞ頑張った。

これが後々ひびいて来るとは、この時は知る由もない４人でした。

（阪口　百合子）

北海道花旅２　《雌阿寒岳》 1,499m

【日　程】７月１６日（水）晴れ
【ｺｰｽﾀｲﾑ】雌阿寒温泉登山口(7:50)～４合目(8:50)～８合目(10:00)～雌阿寒岳(10:30/50)～８合目(11:25/45)～キャンプ場前(14:15)～雌阿寒温泉登山口(14:45)　歩数：16,670

登山道に入るとアカエゾマツの落ち葉でフカフカの道マツポックリが沢山落ちている。脇にはゴゼンタチバナが群生しており、ヒメマイズルソウも見える。花に気を取られながら進んでいると 1 合目の標識、程なく 2 合目、3 合目と順調。直ぐに 4 合目かと思いきや中々着かず見過ごしたかなと思っていると下りになる。いったん下り尾根が変わり登った先に展望のいい所に 4 合目の標識が有った。眼下にコバルトブルーのオンネトー湖が少し見えた。4 合目辺りからハイマツ帯の視界の開ける登山道になり 5 合目まで来ると今夜の宿、国民宿舎野中温泉が見える。振り返り来た道を眺め眺望を楽しみながら進む。

8 合目から景色は一変し砂礫の急な登りになり赤茶けた火口の稜線になる。メアカンフスマ、メアカンキンバイ、コマクサ、イワブクロ等が砂礫の山肌に色を添えている。火口からは水蒸気の音が響き噴煙が上がっているのが見える。火口の淵を廻り山頂に到着。火口には音と共に噴煙が上がり赤沼が見えていた。前方に雄阿寒岳、右手に黒々とした阿寒富士を眺め火口を背に昼食を摂る。お天気に恵まれ風も無い中、山頂で至福の時を過ごしオンネトー湖キャンプ場への下山道にと進むと火口に青沼が見えて来た。一つの火口の中に赤と青の 2 色の沼が見える不思議な風景

である。何かに地球の不思議と有ったのを思い出す。8 合目まで下ると阿寒富士の登山口が見え、黒々とした山肌に登山道がジグザグ模様に見える。往復 30～40 分らしく皆の体調次第で登るかどうか決める事になっていたが女性陣は揃って待機組に。リーダーは気持ちを残しながらも断念（たぶん）。ここでゆっくりティータイムとなる。お茶を飲み始めて直ぐ阿寒富士の登山口に一人登り始めた人を見つける。かなり早いと思い気を付けてみると空身で有る事がわかる。自分が登っているような気になり応援している内に山頂まで行かれた。緑の無い登山道に登る意欲を無くしたのだったが後で知り合った人に聞いた所、山頂に素敵なお花畑が有るらしい。8 合目からは右手に雌阿寒岳、左手に阿寒富士を見ながらの下山となり阿寒富士の裾野の長さを感じ、また雌阿寒岳のコマクサ、メアカンフスマ、イワブクロに癒されながら下るが後続者に次々と抜かされる。まだキャンプ場から野中温泉登山口までの 1 時間余りの国道歩きが有る。女性陣の疲れを察したリーダーが先に降りられる事になる。キャンプ場前に着くとザックと車を回すとのメモが有りホットする。待つ事、数分でリーダーの車が到着。途中オンネトー湖に立ち寄り雌阿寒岳、阿寒富士をバックに記念撮影をして今宵の宿に向かう。

（今井　雅代）

北海道花旅３　《斜里岳》 1,547m

【日　程】７月１７日（木）晴れ

【ｺｰｽﾀｲﾑ】清岳荘登山口(7:00)～下二股(8:05)～上二股(10:18)～斜里岳(11:45/12:15)～上二股(13:10)～下二股(15:10)～清岳荘登山口(16:10)　歩数：19,863

清岳荘の前を通り登山道に入る。歩き初めて暫くすると下りになり一ノ沢沿いを歩き渡渉を繰り返す。5 回 6 回と数えたが分からなくなり数えるのを諦めた。数えきれない程の渡渉を繰り返して下二股に着く。下二股で沢道の旧道コースと尾根道の新道コースに分かれる。沢道を行く。

旧道の沢道を飛び石したり、岩伝いに進んだりしながら渡渉を繰り返して進んでいるとシナノキンバイの鮮やかな黄色が目に付き淡いピンク色のチシマフウロや

白い花のオニシモツケ、薄紫のミソガワソウが咲きほこり、優しい色とりどりの花々の様子に心和む。沢をつめて行くと水簾の滝、羽衣の滝、万丈の滝と次々に滝が現れる。滝の横の岩をよじ登ったり、滝の上を歩いたり、滝を眺め、濡れた岩に緊張しながらもロープや鎖を頼りによじ登る。夏で良かったと思いながら。沢の水の音が涼しく、変化の多い山道に疲れ忘れ楽しくなる。さらに見晴しの滝を過ぎ七重の滝にくると素晴らしい景色である。登り続けて行くとやがて沢が細くなり新道と合流する上二股に着く。上二股からはマルバシモツケやウコンウツギが咲きダケカンバ等の木に覆われた山道を登り、ガレ場に出ると馬の背が見える。胸突き八丁で有る。ここでリタイヤするという札幌のご夫婦に出会う。奥さまが体調悪いらしい。この奥さまからニペソツ山のお勧めが有った。トムラウシの下山中に居合わせた方にも教えて頂いた山だ。ご夫婦に別れを告げ、急なガレ場を落石に注意しながらひたすら登ると馬の背に着きやっと先が見えて来た。馬の背から稜線を登り、ケルンを過ぎると斜里岳神社に着く。斜里岳神社前で記念撮影をし、斜里岳神社を巻き下った先にミヤマオダマキ、ミヤマアヅマギク、ウメバチソウ、タカネシオガマ、エゾツツジ、マルバシモツケ、チングルマ、ハクサンイチゲ、エゾカンゾウが咲き誇るお花畑が現れる。想像もしていなかったお花畑に感激。お花に癒され稜線を登るとやっと山頂到着。生憎山頂はガスで期待の眺望は無い。山頂は広くガスが晴れるのを待っている方が幾人かおられた。山頂からの羅臼岳等の知床連山、国後島、や阿寒の山々の眺望を楽しみにしていたのだが残念。食事しながら待つ事にする。1 時間待ったと言う方も諦めて下山され、私たちも 30 分の休憩で下る事にする。南斜里岳がクッキリと綺麗に見えていただけでも幸い、お天気も良く、風も無く山頂に 30 分居れただけで運がいいと自分にいい聞かしながらの下山。馬の背を下り上二股から尾根道の新道コースを取り、熊見峠と下るが登山路からいくつものピークが見える。小さいアップダウンの繰り返しが疲れた足に結構こたえる。一番高いピークが熊見峠だった。能見峠からは尾根道の下りになる。木の根が有ったり急な段差だったりで疲れた足でなかなか時間が掛かる。途中、振り返り、やっと斜里岳の山頂の一部を眺め全容を見れたのは、だいぶ下ってからだった。やがて旧道と合流する下二股に着き、一ノ沢沿いをまた渡渉繰り返しながら清岳荘の登山口に着く。変化の多い面白い夏向きの山だった。

（今井　雅代）

北海道花旅４　《羅臼岳》 1,661m

【日　程】７月１８日（金）晴れ

【ｺｰｽﾀｲﾑ】登山口(4:50)～弥三吉水(6:35)～銀冷水(7:35)～大沢入口(8:00)～羅臼平(8:50)～羅臼岳山頂〔昼食〕(10:20/11:25)～羅臼平(11:55)～大沢入口(12:30)～銀冷水(12:50)～弥三吉水(13:45)～登山口(15:10)　歩数：28,768

岩尾別温泉ホテル地の涯の横が登山口。樹林帯の中をあえぎながら登っていくと、海が見えるオホーツク展望台に着く、少し海が見えた。又歩き出し弥三吉水に着くと汗が噴き出し喉が渇く、暑い。仙人坂からは知床五湖の木道が見えると期待したが私の目には良く見えず、ガッカリ。銀冷水の横にトイレブースが一つ。北海道の山にはトイレがなく苦労する。樹林帯を抜けると大沢入口に出る。ここから雪渓歩き。雪の上を歩いていても暑い。雪渓歩きが終わるとお花畑が現れ癒されるが暑い、しんどい。羅臼平に着いた時には疲れが溜まってきているようで、汗ビッショリ。水も今までになくよく飲む。少し休むとヒグマ避けのフードロッカーを見つける。

そう言えば今まで、リス、シカ、キツネは見たがクマにはあっていない。そんな事を考えながら前を見ると、羅臼岳の頂上がそびえていた。大した岩山である。疲れた体にムチ打って頂上を目指す。緊張して岩を登り、登頂成功！お昼を食べていると兵庫県の女性 4 人のチームが来て山話に盛り上がる。どの山もそうだが、他府県の人が多い。下山途中に岩清水があり、冷たいと期待して飲むがそれほど冷たくはなかった。でも間違いなく羅臼岳頂上の水だと思うとありがたい。下山途中の雪渓で、後ろから例の 4 人組が追いかけてきたので先を譲ると、クマが怖くて追いかけてきたと言われた。やはりみんな、知床はクマが多いと思っているようだ。クマにも会わず無事に下山できて良かった。下から見る羅臼岳は雄大で美しい姿をしている。機会があれば又来てみたい山の一つである。

（阪口　百合子）

北海道花旅５　大雪山系：《赤岳》2,078m・《白雲岳》2,230m・《北海岳》2,149m・《黒岳》1,510m

【日　程】７月２０日（日）晴れ時々曇り

【ｺｰｽﾀｲﾑ】層雲峡ｸﾞﾗﾝﾄﾞﾎﾃﾙ(4:00)＝《ﾀｸｼｰ》＝銀星台(4:45)～赤岳(7:50)～白雲岳分岐(8:40)～白雲岳(9:20)～白雲岳分岐(10:02)～北海岳(11:45/12:00)～黒岳石室(13:30)～黒岳(14:00)～黒岳リフト場(15:20)＝《ﾘﾌﾄ》＝層雲峡 RW 乗り場(15:50)＝《RW》＝層雲峡(16:10)　歩数：30,647

今回の北海道山旅、メインコースである、予定を 1 時間早めて、4 時ホテルを出て、タクシーにて銀星台へ、朝から澄きった青空のもと、雲海を眼下に見ながら、雪渓を渡り、お花畑を通り、雄大な景色を楽しみながら、赤岳へ、赤岳山頂は意外にも平坦な登り、これから行く、北海岳・黒岳が展望できる、広大な平原を行く感じで、白雲岳分岐に到着、案外人が多い、ザックを下して、白雲岳山頂へ、ここからは先日登った、トムラウシ山・旭岳を遠望できる、登山口で出会った人とはここ

で別れる、これから行く道のりを見渡し、雪渓を渡り、お花畑を通り、北海岳へ、途中で昼食を取ってから、登って行く、北海岳山頂手前はお花畑である。

北海岳山頂では噴火後の広大な御鉢平を眼下に見ながら下って行く、お花畑を通り、雪渓を渡り、雪解けの川を渡り、黒岳石室分岐へ、ここからの最後の登りは相当堪える、小さなエゾツツジが沢山咲いている、黒岳は急に人が多い、ここからの下山コースはお花畑である、あいにくガスがかかってきだした、人がやたら多い、やっとリフト場に到着、リフトに乗る、リフトに乗っていると、寒くなってきた、RW でさらに下って無事到着長い 1 日がやっと終わって、無事ホテルへ到着、皆さん元気で体力・気力もあって、メンバーに恵まれたことを感謝、感謝！！

（島崎　隆）

北海道花旅６　《富良野岳》 1,912m

【日　程】７月２１日（月）晴れ

【ｺｰｽﾀｲﾑ】十勝岳温泉登山口(6:37)～上ホロ分岐(7:44)～富良野岳分岐(9:18)～富良野岳(9:50/10/10)～富良野岳分岐(10:45)～昼食(11:55/12:20)～三峰山(12:39)～かみふらの岳(13:20)～上ホロカメットク山(13:45)～かみふらの岳(14:00)～上ホロ分岐(15:17)～登山口(16:24)　歩数：27,500

今日は富良野岳の山行。昨晩の層雲峡ホテルを早朝出発した為、道内一標高の高い十勝岳温泉に車を置き予定より早く登り始めた。三段山分岐を直進する、ガレ場だが登って行くと噴煙が少し上がる火口手前でヌッカクシ富良野川を少々渡渉し黄色のペンキに従い右に折れチィングルマの果穂に癒されながら、上ホロ分岐を直進する。マルバシモツケ等の低木帯を歩いて行くと、正面に富良野岳がそびえている、二百五十段程の階段を登ると、富良野岳分岐。

富良野岳へ 0.8km の指導標あるも急登だ、富良野岳ではエゾルリソウ、ハクサンイチゲ、イワブクロ等の花々は私たちを満面の笑みで迎えてくれ、出発点のホテルが眼下に見え、十勝岳連峰、境山等展望も良く時々ガスも上がってきて、その景色に変化をつけて堪能させてくれた、富良野分岐へ下っていくと濃霧も少し体験できエゾルリソウ、エゾコザクラ、キバナシャクナゲ等を見ながら、三峰山で振り返ると、大きなキツネが富良野岳の登山道の東から、駿足でかけ上がっているのが見えた、その後リーダーはナキウサギも見た、アップダウンしながら稜線漫歩し、上富良野岳へ着く。

ここでザックをデポし、ガレ場を登ると上ホロカメットク山だ。山頂から爆裂火口の痕を覗き見するも何と雄大な荒涼とした景色。かみふらの岳から急な崖を落ち込まない様十分注意し、カルデラの中の八ツ手岩、化物岩の荒々しい姿を眺めながら、D 尾根の稜線を歩く、途中から灌木とササが多くなり、三百階段を延々と下る。朝直登した上ホロ分岐に合流、これを下るとヌッカクシ富良野川が涸れていて、安政火口の噴煙も静になり下山。

（亀井　稚代）

例会山行１（夏山山行）

南アルプスの山　《甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳》

【日　程】７月２５日（金）～２７日（日）
【参加者】L 亀高・SL 多賀・藤本・杉村・玉越・杉川・橋本・松浪・勝尾（9 名）

１日目　《甲斐駒ヶ岳》 2,967m

【日　程】７月２６日（土）快晴
【ｺｰｽﾀｲﾑ】長衛小屋(7:30)～仙水小屋(8:00)～仙水峠(8:40)～駒津峰(10:25)～《直登ｺｰｽ》～駒ヶ岳山頂(13:00/20)～《捲道》～摩利支天分岐(13:50)～駒津峰(14:55)～双児山(15:50)～北沢峠(17:34)～長衛小屋(17:50)

仙流荘前のバス停は、早朝からバスを待つ登山客で溢れ返っていた。バスも 10 台がピストン輸送をして登山客を運んでいたが、まだまだ時間が掛かりそうな所、私達は運良くバスに乗る事が出来、予定の時間には北沢峠のテント場に着く事が出来た。テント場では後発のお 2 人が先に到着されていて、寝る時間を割いて（睡眠時間 1 時間！！）テントを設営していて下さり、お陰で予定より 30 分早く出発する事が出来た。

テント場から北沢沿いの針葉樹林帯の中を、30 分程登ると仙水小屋に着いた。谷から豊富な水が引かれていて、美味しい水を頂戴する。暫くして樹林帯を抜け、強い日差しを浴びながら、ゴロゴロ岩の上を進むと仙水峠に着いた。摩利支天の岩山が間近に見え、その向こうに鳳凰三山が見える。そしてここから、いよいよ急登が始まる。駒津峰までの急登の途中、S さんに言われて背後を振り返ると、仙丈ヶ岳、北岳、北岳の後に富士山が見え、厳しい登りの中少し元気がでた。所々咲いているハクサンシャクナゲやタカネイバラ等の花々にも癒されながら駒津峰に到着。この辺りが森林限界なのか、ハイマツの中にまばらに針葉樹が生えている。ここでの眺望が素晴らしかった。仙丈ヶ岳、鋸岳、鳳凰三山、北岳等の南アルプスの山々が間近に見え、北岳の後に富士山、西には中央アルプス、そして遥か遠くに北アルプスの槍の穂先までが見え歓声を上げる。前方にはこれから目指す甲斐駒ヶ岳が、朝日を浴びて岩肌を銀色に輝かせ、堂々とした厳しい姿で迫っている。ここで一旦下り、尾根通しコースと巻き道コースに分れるが、私達は尾根通しコースを取った。鎖の無い岩場を慎重に登る。花崗岩の岩がしっかりしているので怖さは無かった。この頃から感じた息苦しさや吐き気と戦いながら、この後の山頂までのザレ砂の急坂をやっとの思いで登り、辿り着いた山頂は白い雲に覆われていた。山頂では昼食を摂るが

吐き気で食欲無し。
　下りは巻き道を取ったが、細かくザラけた砂で滑りそうで気が抜けない。摩利支天分岐から六方石を越え、駒津峰、そこから登りとコースを変えて双児山を越えて北沢峠に降りた。朝 7 時 30 分に出発して、北沢峠が 5 時 30 分と 10 時間に及ぶ厳しい山行となった。
　夜中小屋の外に出ると、雲ひとつ無い空に大小無数の星が輝いていた。

（勝尾　栄美子）

２日目　《仙丈ヶ岳》 3,033m

【日　程】７月２７日（土）晴れ時々曇り一時雨

【ｺｰｽﾀｲﾑ】テント場(4:30)～二合目(5:10)～大滝頭(6:20)～小仙丈ｹ岳(7:30)～仙丈ｹ岳(9:04)～小仙丈ケ岳(10:15)～大滝頭(11:05)～登山口(12:35)

　厳しかった甲斐駒ｹ岳登山で疲れが残り 2 日目の仙丈ｹ岳は、「待機しようか」と迷われた方も最初いたが、行ける所まで登ろうと思い直し全員頂上を目指す。
　緩やかな樹林帯を登りつつ各自のペースを取り戻し高度を上げてゆく。「大滝の頭」より尾根道と出、小仙丈ケ岳へと登る。山々の隙間を埋めるように浮かぶ雲海、

荒々しい岩場の甲斐駒、北岳、鋸岳、遥か北アルプスの大パノラマ。又、優雅にそびえ立つ富士山を眺める。この素晴らしい景色を期待していた私は感動しっぱなし！やがて小仙丈ｹ岳に到着。しかし仙丈ｹ岳まではまだまだ・・・仙丈カールを眺めながらもうひと頑張りと気を持ち直し先へ進む。途中行き違いができない狭い岩場が何ｹ所かあり混雑。慎重に通過する。ナナカマド、岩鏡、チングルマなどかわい花々に出会い心は和むが、目指す山頂は遠く稜線の先の方。「もう少し頑張れ」と自分に言い聞かせながらの登頂となった。しばし山頂で休憩を取ったがだんだんとガスがかかり始め、とうとう周りの景色が何にも見えない。残念！
　下りは同じコースを下る。皮肉にも下りかけると、雲が切れ青空が広がり始め絶景を見ながら緩やかな稜線を下ることができた。今日の天気は下山する頃までは大丈夫だろうと予想していたが、2 合目に着くころに雨が降り出し、テント撤収のため 4 人早く下山する。本降りのような雨模様となり、撤収は大変だったと思われたが取り合えず荷物をまとめてバスに乗り仙流荘へ。当初予定していたコースとは違っていたが予定通りのバスに乗車できた。
　事故もなく参加者全員が 2 つの山を踏破できたことに改めて感激した。
　大変しんどかった山行だったが、次へのステップとなるような山行となり初めての夏山の参加だったがとても有意義だった。
　サポートしてくださいました皆様有難うございました。

（橋本　紀子）

県連登山学校（ﾊｲｷﾝｸﾞ ﾘｰﾀﾞｰ学校）訓練山行

大峰の山　《天川村 九尾谷(つづらおだに)付近》

【日　程】８月２日（土）雨～３日（日）曇り後雨
【参加者】L 今井・藤本・杉川 / 中武（奈良労山：講師）（計 6 名）
【ｺｰｽﾀｲﾑ】
　８／２　田原本駅前集合(22:30)～天川九尾谷(0:20)〔テント泊〕
　８／３　九尾谷(10:50)～稜線取付き(11:50/12:00)～P. 990～P. 991(12:55)～三角点 988.7(13:25)～九尾谷(14:30)

登山学校山行 2 回目地図読み山行は深夜、雨に濡れながらのテント設営に始まり、テン場での楽しい語らいと山行での厳しい指導、そして最後の反省会で無事終了しました。苦手な地図の読み方がほんのすこ～しだけ解ったような気がします。

九尾谷に 0 時過ぎに着きテン場を探し、雨に濡れながら道路脇の作業場らしき空き地にテント設営。持ち寄ったお酒とおつまみで早々に山談議。話に花が咲き終わったのが夜が明け始めた 4 時過ぎ。いつしか雨もやんでいた。殆ど徹夜。緊張感のせいか眠気は感じないが体は重い。

9 時 30 分地図読み開始。まずは現在地の確定と言う事で 1/25,000 の地形図片手に行ったり来たり。尾根、川、沢、崖等地形図と何回も確認するが中々解らない。先輩のお二方も特定材料が無く難しいと言われたのを聞いて少し気が楽になる。コーチや先輩のアドバイス受けては確認、これを何回か繰り返す内コーチより地形図で候補地 A, B, C を決めポイントを絞って確認の指示が有る。その後やっと確定出来た。現在地確定後は地元の方に聞いた道に入りコンクリートの九十九折の急坂を汗だくで登り、P990、P991、尾根の 1020m 地点等を確認した後、三角点の有る P988.7 へ。三角点を見つけた時の安堵感。標識の無い山で地図読みの大切さを実感出来た１日でした。

（今井　雅代）

自主山行

北アルプス　《五色ヶ原～薬師岳》

【日　程】８月１２日（火）夜発～１４日（木）
【参加者】L 杉川・藤本（2 名）
【ｺｰｽﾀｲﾑ】

8 月 12 日　生駒(22 時頃)＝〈阪奈・京奈和・京滋 BP・名神・北陸道〉＝

8 月 13 日　＝立山駅(4 時頃/6:50)＝室堂(8:40/55)～浄土山(10:25/48)～一ノ越分岐(11:13)～龍王岳・鬼岳鞍部〔昼食〕(11:50/12:19)～獅子岳(13:30/32)～ザラ峠(14:28/37)～五色ヶ原山荘(15:22/25)～テント場(15:35)〔ﾃﾝﾄ泊〕

8 月 14 日　五色ヶ原テント場(8:35)～ザラ峠(9:28)～獅子岳(10:36/47)～鬼岳・龍王岳鞍部〔昼食〕(12:07/30)～一ノ越山荘(13:42/44)～室堂(14:25)

北ｱﾙﾌﾟｽの名峰を望みながら、巨大な薬師岳の頂を踏むこと。これは、5 年前に初めて北ｱﾙﾌﾟｽを訪れたときからあたためていたﾌﾟﾗﾝだった。一方で、杉川さんが五色ヶ原でのﾃﾝﾄ泊と薬師岳縦走を計画していることを偶然知り意気投合、二人の休みが一致する盆に決行となった。数日前に台風 11 号が日本を通過、台風一過の青空が続いてほしいとの期待に反して、予報天気図には梅雨（秋雨？）前線が現れつつあったが、とにかく五色ヶ原までは行こうと 12 日遅くに奈良を後にした。

明けて富山は快晴。淡い期待を胸に立山駅で長蛇の列に並び、室堂までの「片道」切符を購入。今晩から雨のはずなのに、ｹｰﾌﾞﾙは満員の客を 10 分おきに運んでいる。みんな日帰りなのかしらん・・・いや、結構行けたりして・・・と思ったのも束の間、美女平からのバスが高度を上げるにつれ、素晴らしい展望の空に巻積雲（うろこ雲：悪天の兆し）が現れる。もう夏じゃないんだ！かくして五色ヶ原ﾋﾟｽﾄﾝの覚悟で室堂を出発する。

一ノ越方面への遊歩道を左に見送り、小さな雪渓を渡って浄土山への登りにかかる。途中で南方に五色ヶ原山荘が望まれるが、実際はまだまだ遠い。浄土山頂からは、劔、立山連峰、裏銀座の山々、薬師岳、槍・穂高までの大展望。雲は多いが青空もあり、今日一日はなんとかなりそうだ。龍王岳の西を捲いて鬼岳へ向かうと室堂の喧騒はうその様、それでもﾃﾝﾄ泊装備の登山者は少なくない。しかもさすがｱﾙﾌﾟｽ、若者が多い！聞くと雲ノ平までというﾊﾟｰﾃｨｰもあった。「若い」女性（山 girls 装束だけではなく、ちゃんと顔を見て確かめました）の単独行もちらほら。これから天気が悪くなるのに・・・と自分たちのことは棚に上げて要らぬ心配をする。

鬼岳東面には大きな雪渓が 2 箇所残るが、歩行に問題はなく、むしろ涼しくて心地よい。それにしてもｱｯﾌﾟﾀﾞｳﾝの激しいこと、今日のｺｰｽには山頂というほどの山頂もなく、目的地は五色ヶ「原」ということで、いささかなめていたのだが・・・。

ところで、佐々成政のさらさら越えで有名なザラ峠はどうなった？「今日一番のしんどい所」と会う人ごとに話題になっているが、急坂を上り詰めるたびにここが

「ザラ峠」？と思うのだけれど・・・――これが完全な勘違い。「山屋」の端くれでありながら、自転車乗りの私にとって、「峠」というのは山越えｺｰｽ途中で通過する「最高点」なのだ。寝不足のせいか、私の頭は前日の自転車ﾓｰﾄﾞのままだったのだろう。何回登ってもそこはザラ峠ではなかった（当たり前！）――そしていよいよ本物のザラ峠の「下り」！ザレ場、ガレ場、梯子、鎖と、全部そろった嫌な下り（それぞれは大したことはないのだが、長い。それに私は岩と下りが大嫌い）。杉川さんは身軽にこなしていくけれど、こちらは折から一緒になった年配の方のﾊﾟｰﾃｨｰと一緒にゆっくり下る。

峠を越えて、尾根の西面に断崖絶壁が見えればその向こうが五色ヶ原。木道をだらだらと登って五色ヶ原山荘にﾁｪｯｸｲﾝ。それからさらに 10 分程度でやっとﾃﾝﾄ場に到着。そこは色とりどりのﾃﾝﾄが花盛り、でもこの人たち、明日はどこへ向かうのだろう。上空の雲はかなり厚くなってきたが、南の空は結構明るく薬師や黒部五郎が夕日に輝いている・・・――雨は降っても何とか行けないことはないだろう。でも、明日からは展望は望めない。せっかく「でっかい薬師」を縦走するのに、槍や穂高や、なつかしい赤牛と水晶（私が北ｱﾙﾌﾟｽで最初に登った山）が見えないのはつまらない！１年後だ！――というわけで、腹を決めたら、さあ、残り 2 日分の食糧を全部食ってやろう、と食事にとりかかった。やがて 6 時前には最初の雨が。早々にﾃﾝﾄに逃げ込み、杉川さんは前夜の寝不足も手伝ってすぐ熟睡。一方眠りの浅い私は、激しくﾃﾝﾄをたたく雨の音に何度も起こされながら朝を待つ。

翌 14 日午前 3 時、まわりでは話し声が頻り、ｶﾞｽﾊﾞｰﾅや食器の音、ﾃﾝﾄの水滴を払う音とともに、続々と皆が出発してゆく様子が覗われる。雨は小康状態のようだが、時折思い出したようにﾃﾝﾄに打ち付ける。皆の出発がこんなに早いのは、荒天が予想される明日 15 日までに下山しようとする人が多いからだろう。そんな中、雲ノ平へ向かうと言っていた若者のﾊﾟｰﾃｨｰは、3 時半ごろ南へ向けて出発していった。今日中に薬師岳山荘あたりまで到達したいようだ。ﾋﾟｽﾄﾝで室堂へ戻ることを決めた私達は、皆の無事を祈りつつ二度寝に入った。7 時頃雨が止んだﾀｲﾐﾝｸﾞで外へ這い出して、ゆっくりと朝食をとる。ﾃﾝﾄは全部で 3 つになっていた。夜明け前に出発した人たちは、その後の雨の中難儀しているだろうか？我々が慎重すぎたのだろうか？などと思いめぐらしながら、一番最後にﾃﾝﾄ場を後にしたのが 8 時半ごろ。実のところ私達はそのあと一度も雨には会わなかった。何という幸運！

復路、北西からの強風下にザラ峠の「登り」はさすがにつらかったが、獅子岳付近で雷鳥の親子に出会ったり、往路では余裕のなかった花々を愛でたりと、楽しく歩を運ぶ。浄土山は通らずに一ノ越経由で下山。一ノ越山荘からの遊歩道は、雪渓で転倒を繰り返す「観光客」で渋滞していた。自分が未熟ながらも「山屋」の一人であることを実感するひととき。そして無事室堂帰着。

翌 15 日、北穂滝谷出合と奥穂で合わせて 4 名の遭難死亡事故発生。あの日五色ヶ原のテント場でご一緒した人々が皆無事だったのはせめてもの救いである。

（藤本　武司）

自主山行

《御嶽山》

【日　程】８月１７日（日）～１９日（火）
【参加者】L 藤井・島崎・勝尾・亀井（4 名）
【ｺｰｽﾀｲﾑ】

17 日(日)　王寺 5:00＝(車)＝濁河温泉 10:20
小坂登山口(11:00)～湯の花峠(12:05)～八合目お助け水(13:20)～
五の池小屋(15:07)

18 日(月)　五の池小屋(6:47)～白龍避難小屋(7:25)～二の池小屋(7:55/8:10)～
御嶽山剣ヶ峰(9:30/10:15)～賽の河原(11:07)～三の池(12:00)～五の池小屋
(12:52/13:10)～八合目(14:00)～湯の花峠(14:57)～仙人の滝(15:55)～
小坂登山口(16:10)

今年の 8 月は不安定な天気が続き、予定していた北アルプス表銀座山行も台風 11 号の接近で中止になった。その代わりにと急遽木曽御嶽山登山がまとまった。車を出してくださる S さんが一度濁河温泉に泊まりたいということで、岐阜県側の濁河温泉小坂登山口から登り山中で一泊し、二日かけてのんびり登るコースをとった。

《１日目》

出発前日に豪雨で槍ヶ岳下山途中の沢や赤木沢で遭難のニュースが入って決行をあやぶんだが、初日はともかく、二日目の天気は回復すると希望をもって早朝 5 時に王寺を出発する。

登山口には予想していたよりかなり早く着けた。奈良では降ってなかった雨がこちらではしっかり降っている。駐車場には車が 2、3 台止まっているだけ。

簡単に食事を済ませて、雨具を着けてコメツガやシラビソの美しい林の中を登っていく。登山道は木を敷き詰めた桟道になっていて、傾斜が急になってくると階段状になる。八合目のお助け水は涸れていて水はない。この辺りが森林限界のようで岩ゴロの急な登りが続く。晴れていれば展望が開けるのだろうが今日は何も見えない。

太ももにピッと痙攣が走りはじめる。水分、塩分の補給が足りなかったのか、暑さにかまけて運動不足がたたったのか痛みがひどくなり足が動かなくなってしまった。雨の降りしきる中、皆様に待っていただき、おまけに荷物まで持ってもらってなんとか、だましだまし小屋までたどり着くことができた。

小屋周辺はお花畑になっていて鮮やかな紫のイワギキョウ、それに咲き残っていたコマクサに癒された。五の池小屋は木の香りのする新しいきれいな小屋で五の池のほとりに立っている。お盆休みが済んだせいか、天候のせいか小屋は空いていて

2 階全部が貸切で勝手に好きなところに寝た。

夕食後雨のやみ間に外に出ると、夕日や虹が見えた。下界ではあんなに暑かったのに震えるほど寒かった。

《2日目》

今日は晴れるとのことだが出発時、雨はまだ止まない。摩利支天の分岐まで急な岩の道を登りきると、徐々に天気は回復し展望も少しずつ開けてきた。でもまだまだ油断はできない。何度も雨具を着たりぬいだりを繰り返し、ケルンのような石積みがたくさんある賽の河原、二の池小屋を通過する。水のない一の池の周りを回るお鉢巡りの稜線上から、池の向こうに目指す剣ヶ峰が見えてきた。時々硫黄の臭いがし、荒々しい噴火口を見て火山であることを実感する。お鉢巡りの稜線上には十六童子の石碑が点在していた。最後にひと登りし神社の立つ山頂に着く。

私たちの到着を待っていたかのように青空がどんどん広がってきた。眼下に見えるコバルトブルーの二の池が美しい。信仰の山だけあって白装束の団体さんを見かけるが、人が少なく静かな3,067メートルの山頂の展望をこころゆくまで楽しんだ。

帰りは雪渓が残り水源地になっている二の池のほとりを通り、賽の河原から三の池の周りを回って、ここも枯れている四の池を見て、五の池小屋に戻る。いろんなところにお地蔵さんが立っていた。三の池では可愛いお花たちがまだ咲いている。

御嶽だけあってオンタデが多い。五つの池はそれぞれ表情が違っていて興味深かった。

五の池小屋で一息ついて、昨日雨の中登ってきた道をひたすら下っていく。帰りは木の桟道も乾いていて、昨日心配していたほど滑ることはなかった。疲れで足が重くなっていたが登山口近くの仙人の滝に立ち寄る。水量が多く豪快に流れ落ちる滝を見て元気をもらった。

下山後は濁河温泉に一泊しSさん念願の温泉で疲れを癒した。

（藤井　益子）

例会山行１（夏山山行）

北アルプスの山　《剱岳》 2,999m

【日　程】８月２２日（金）～２６日（火）
【参加者】L 的場・SL 島崎・阪口・今井（4 名）

１日目

【日　程】８月２２日（金）晴れ時々曇
【ｺｰｽﾀｲﾑ】JR 王寺(6:00)～北陸自動車道～立山駅(11:40)～室堂(13:30)～雷鳥沢ヒュッテ(14:50)〔泊〕

天気を心配しながらの出発。立山駅で昼食を取り、ケーブルに乗ったとたんにガスが出てテンション下がる。でも室堂に着いたら、日が差してきた。このまま雷鳥沢ヒュッテまでお天気が持ちますように祈りながら歩き出す。

途中ビニール袋に草をいっぱい入れた人達に会い、この人達は何をしているのだろうと思っていると、後でボランティアで、外来植物を駆除している人達だとわかる。人の出入りのある所は、植物の世界も生存競争が厳しいようだ。ヒュッテまでは、整備された道でハイキング気分で行ける。

山荘の近くまで行くと、空模様が怪しくなり山荘についたとたん雨が降ってくる。濡れずに済んで良かった。この日は温泉に入り、明日の天気の心配をしながら床に就く。

（阪口　百合子）

２日目

【日　程】８月２３日（土）晴れ
【ｺｰｽﾀｲﾑ】雷鳥沢ヒュッテ(6:30)～剱御前小屋(8:20)～剣山荘(9:26/45)～前剱(11:00)～剱岳(12:46/13:00)～前剱(14:10)～剣山荘(15:37)〔泊〕　歩数：15,380

昨夜来、雨・風が強く弁当を小屋にて食べて、出発時間を遅らせて出る。雷鳥沢テント場を眼下に見える頃は晴れてきだした。立山連山を見ながら、急坂を登って、劔御前小屋では快晴となり、剣山荘へ。眼下に山荘を眺め、到着。ここで軽ザックに変えて、登って行く。一服劔では、眼前に前劔が。やっと前劔へ到着するが、目の前に劔岳が大きく聳え立つ。はるか彼方に、かにのタテバイを登る人達が見える。

岩稜を登って行くが、いつの間にか、かにの横這いにきてしまった、登りはタテバイコースを行くのだが、間違ってしまった、数人の人に迷惑をかけてしまった。さらに岩山を登りつめて、遂に到着。それまで晴れていたのにガスがかかり始めた。

360 度の景観とはいかなかったが、ほぼ見渡す事は出来た、昼食を済まして、下山開始。

帰路、眼下に来た道を見ながら、慎重に下る、下りは眼下に下るトレースを見ながら、下って行くが、かなり慎重に下って行く、前劔では別れを惜しむかの様に確認しながら、さらに下って行く。眼下に山荘を見ながら、下って、無事剣山荘に到着。天気にも恵まれ、メンバーにも恵まれて素晴らしい山行でした。

（島崎　隆）

３日目

【日　程】８月２４日（日）曇り一時雨

【ｺｰｽﾀｲﾑ】剣山荘(5:00)～雪渓(5:40)～真砂ロッジ(7:40/8:15)～二股(9:20/27)～峠(11:30/40)～仙人池ヒュッテ(12:05/28)～仙人温泉小屋(14:20)〔泊〕

朝の４時半ごろ剣山荘の玄関で天気を伺っていると、日本語ではない言葉の 10 数人の団体さん（韓国の団体）が、剣岳に登る準備をしている。そして、「パイティン」（がんばれ）と声をかけ合って、出発していく。剣沢小屋からも、剣岳を目指す団体が、薄暗い中ヘッドランプをつけて続々と剣山荘の前を通っていく。

ちょっとガスが出ているが、何とか天気がもってくれればいいがと思いながら、われわれも準備をして剣山荘を後に下っていく。40 分ほど下ると雪渓が現れる。もうすでに、数組が雪渓を歩いている。アイゼンをつけ、雪渓を下る。夏道を歩くより雪渓のほうが歩きやすい。武蔵谷、平蔵谷、長次郎谷の雪渓と出会う。この雄大な雪渓に感動！

途中、雪渓が融けて滝になっている手前で夏道に入る。しばらく歩くと真砂ロッジである。ここで朝食弁当。小屋の主人がこの先の大きく口を開けた雪渓箇所などを教えてくれた。

小さい雪渓を過ぎ川沿いのアップダウンの道を越え、二股というところからは急登が１時間あまり続く。ちょうどこの登りから大きな雨にあうが、峠近くまで登ると雨がやんでくれた。そして仙人池ヒュッテに着き休憩を取る。今日はこの登りが、一番の難所だったようだ。

仙人池では天気がよければ「逆さ剣」が見られるそうだが、今回は残念ながら雨上がりのガスで見られなかった。午後２時過ぎに仙人温泉小屋に着き、楽しみにしていた露天風呂に入ると、九州からの 10 人ほどの先客組がおり、遠くに見える山談義に花を咲かせながら、秘湯の醍醐味を味わった。また、夕食時は人情味あふれる小屋の主人（当会 T 氏の友）の楽しい話やギターで、普通の小屋では味わえない「おもてなし」を受け、この夜はなぜかぐっすりと眠れた。

（的場　喜義）

４日目

【日　程】８月２５日（月）雨のち曇

【ｺｰｽﾀｲﾑ】仙人温泉小屋(5:20)～仙人ダム駅(8:05)～阿曽原温泉小屋(9:15)～欅平(15:04)

小雨降る中、明るくなるのをまって小屋を出発。斜面をトラバースし、眼下に昨夜の仙人温泉小屋が見え、小屋のご主人が白いタオルを振っていつまでも見送って下さる姿が有り、胸が熱くなる。山道は思っていたより整備されていた。いつしか雨も止んでいた。アップダウンを繰り返し、仙人谷本流の丸太の橋を渡り、大梯子を二つ降ると仙人ダム。建物内の登山道を抜け阿曽原へ。ここから水平道。水平道で楽勝と思いきや梯子を幾つも登り下り、断崖絶壁に造られた狭い道に緊張の連続である。

折尾谷の堰堤内のトンネルを抜けやがて志合谷。ヘッドランプをつけ泥水のトンネルを通過。絶壁に付けられた鎖を持つ左腕がだるくなる。延々と続く水平道に緊張を切らさないように時々眼下を見ると気の遠くなるような高さに造られた道。山の中腹に本当に水平に道が続いて見える。奥深い山に居る事を実感すると共に秋の紅葉の美しさを思う。汽笛が聞こえ、もうすぐ欅平かと思いきや延々と下りが続く。やっと欅平の駅舎が見えてから足場の悪い道の激下りには苦労した。

雨予報の中、スタートした山行だったが思いがけない程の素晴らしい景色を見ることができた。リーダーを始め同行して頂いた方に感謝です。有難うございました。

（今井　雅代）

室内例会だより

【日　時】２０１４年7月３０日（水）１９：３０～２１：００　事務所
【出席者】島崎、林、藤本、多賀、田中悦、田中初、藤井、勝尾、玉越、的場、杉川、
　　阪口、橋本、今井、亀高、松浪、亀井、船江、都築

１．　山行案内
　８月　７日(木)～１１日(月)　夏山山行　北アルプス（表銀座コース）Ｌ藤井
　８月　９日(土)～１０日(日)　例会山行２ 湖東の山（伊吹山）Ｌ多賀
　８月２２日(金)～２６日(火)　夏山山行　北アルプス（剱岳）Ｌ的場
　９月　７日(日)　　例会山行１　県連広域捜査訓練　Ｌ藤本
　９月２０日(土)～２１日(日)　例会山行１(テント泊)湖北の山（高島ﾄﾚｰﾙ）Ｌ藤井

２．山行報告
　６月２９日(日)　例会山行２（夏山訓練山行）大峰の山（釈迦ヶ岳）Ｌ島崎　８名
　６月２９日(日)　県連登山学校（ﾊｲｷﾝｸﾞ ﾘｰﾀﾞｰ学校）現役・ＯＢ合同自主訓練山行
　　京都の山（金毘羅山：Ｙ懸尾根）西大和参加者　藤本、杉川、
　　阪口、今井、４名（他会Ｌ中武《奈良労山》他２名）計７名
　７月　６日(日)　例会山行２（夏山訓練山行）台高の山（池木屋山）Ｌ辻　１１名
　７月　６日(日)　県連登山学校(ﾊｲｷﾝｸﾞ ﾘｰﾀﾞｰ学校)訓練山行　比良の山(釈迦ヶ岳)
　　Ｌ今井（西大和３名、他会３名、計６名）

３．連絡その他
　・県連より報告
　　県連広域捜査訓練　９月７日(日)　Ｌ藤本（場所は直前に決定しますができるだけ参加をお願いします。）
　　県連のあり方について、理事が常任理事を兼ねてはとの意見があり理事会において検討されることになった。
　　県連交流山行（登山バス）　１０月２６日　江若県境　三十三間山　Ｌ藤本
　・８月３１日(日)　運営委員会１３：３０～　室内例会１５：００～
　　暑気払い１７：００～（場所　屋台すし　１６名参加予定）

（都築 周作）

西大和つうしん

第387号（2014年9月号）

2014 年 8 月 31 日発行

発行責任者　島崎　隆
編集責任者　藤本武司

奈良県勤労者山岳連盟　西大和山の会
http://www.nishiyamatoyama.org/